



松田権六の仕事場

関連資料展示

松田権六の道具

左ケース

- 1：鯨篋（くじらべら）
- 2：中尊寺金色堂の解体修理の時に出てきた平安時代の刷毛を模して作られた刷毛
- 3：檜の皮で作った篋
- 4：上塗り専用の刷毛
- 5：地塗り専用の刷毛
- 6：細く塗るための刷毛
- 7：小刷毛
- 8：あしらい毛棒（けぼう）・・・蒔絵粉を扱うための筆の一種
- 9：鼈甲製の蒔絵筆用の洗い篋
- 10：大小の針金で作られた「引掻き」用筆
- 11：ぶんまわし・・・コンパス
- 12：犬牙（けんぎ）・・・柄の先に犬の牙を取り付けた道具
- 13：鯛牙（たいぎ）・・・柄の先に鯛の牙を取り付けた道具
- 14：各種蒔絵筆
- 15：粉筒（ふんづつ）
- 16：塗師刀（ぬしがたな）
- 17：槍鉋（やりかんな）
- 18：彫刻刀や各種の切出小刀

遺愛の品々

- 19：フェルト帽
- 20：腕時計
- 21：筆記用具
- 22：眼鏡

粉筆筒の引出

中央ケース

- 23：粉鎮（ふんちん）
・・・蒔絵用の金銀粉を入れた粉包みを押さえるために用いる重し
- 24：粉匙（ふんさじ）・・・蒔絵用の金銀粉をすくうのに用いる小さじ
- 25：鳥軸製粉筒
- 26：爪盤（つめばん）・・・蒔絵を描く際に漆をのせておく小さなパレット
- 27：あしらい毛棒
- 28：払い毛棒

松田権六と6人の手

松田権六の作品制作には様々な工芸家や技術者が協力しています。今回はその中から6名の作家の作品を紹介します。

中央ケース

- 29：大場松魚《平文千鳥盤》1977年
- 30：増村益城《乾漆花輪中次》1986年
- 31：増村益城《洗朱細棗》1981年
- 32：増村益城《乾漆古代朱喜久茶入》1985年
- 33：田口善国《森の空蒔絵大棗》1983年
- 34：田口善国《糸菊蒔絵平棗》1987年
- 35：田口善国《桔梗蒔絵平棗》1991年
- 36：氷見晃堂《桑造蓆盆》1965年

右ケース

- 37：川北浩一《櫛拭漆大円盆》1961年
- 38：奥出寿泉《乾漆廿四辺菊形食籠》1961年
- 39：松田権六《蒔絵松文銘々皿》1965年

蒔絵で使われる素材

- 40：夜光貝
- 41：貝の真珠層部分を薄くはいだもの
- 42：アワビ
- 43：メキシコアワビ
- 44：卵殻（ウズラ）
- 45：象牙
- 46：平文用の各種素材